

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

住吉高校の伝統と実績の上に立ち、国際科学高校として、21世紀のグローバル時代をリードし、世界に貢献する人を育てる学校づくりを進める。その実現へ向けて、生徒の個を大切に、府のパイロットスクールとして新しいことに積極的にチャレンジする学校、生徒や保護者、府民のニーズや期待に応える学校となることをめざす。

- ◎ 基礎から発展まで「生徒が思考する授業」、「力をつく授業」を展開し、3年間を見通した進路指導により生徒の希望進路を実現する。
- ◎ 「チーム住吉」で教職員が一丸となって、国際交流や行事、生活指導を行い、「自由・自主・自律」を体現する生徒を育てる。
- ◎ 世界で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚を有する生徒を育てる。

## 2 中期的目標

グローバル時代をリードし世界に貢献する人を育てるため、生徒につけたい力を定めその実現へ向けた取組みを行い、下記の中期的目標を達成する。

【「5つのつけたい力 (Five Sumiyoshi Qualities)」】

- 1 将来を見通せる深い洞察力と世界を見据えた視野の広さ
- 2 異文化を受け入れることのできる包容力と鋭い人権感覚
- 3 理念のみならず、行動に移せる実行力とバランス感覚
- 4 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力
- 5 科学に対する真摯さと謙虚さ

## 1. 学力向上と進路実現

国際科学高校改編 12 年目を迎え、国のスーパーサイエンスハイスクール (SSH) や大阪府の「『骨太の英語力』養成事業」等の指定校であることの意義を踏まえ、教職員の資質向上と組織的な教育活動により、生徒の学力向上及び希望進路の実現を図る。

(1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成

- ア すべての教科で「つけたい力」「重点目標」「具体的目標」「具体的方策」を見える化し、学校全体で共有し評価する。  
※ 全教科の目標達成度を 80%以上 (H31)
- イ 新学習指導要領や高大接続を見据えた「カリキュラム 30 (仮)」の策定 (H30)
- ウ 授業の形態を引き続きアクティブ・ラーニング (探究型、双方向型、課題解決型) とし、「住吉 AL モデル (仮)」を構築する。  
※ すべての教科で「住吉 AL モデル (仮)」を策定 (H31)
- エ 72 期生 (29 年度入学生) より 3 年間を見通した進路指導を着実に実行する。70 期生、71 期生においても一部取り入れて実行する。  
※ 生徒の希望する進路の実現率 85%以上 (H31)、国公立大学合格者 100 名以上 (H31)

## 2. 国際科学高校としての質的な深化

(1) 国際文化科と総合科学科のさらなる融合

- ア 文理融合カリキュラムの実施 ※スーパーサイエンスクラスの開講 (H29～)
- イ ルーブリック評価による生徒の思考力、表現力等の向上

(2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成

- ア 授業や行事を通じた「使える英語力」のさらなる向上 ※各英語コミュニケーション能力測定テストの目標値の達成 (H29～)

(3) SSH、ユネスコスクールの取組みの充実

- ア SSH の取組みの柱 ①課題研究の質の向上 ②国際共同研究 ③小中高大・産学連携 を確立し、各取組みの成果指標の達成率 80%以上をめざす
- イ ユネスコスクール加盟校として平和学習、人権学習を充実させる。  
※ 学校教育自己診断 (生徒用) の「環境、国際理解、福祉ボランティア等について学ぶ機会がある」の項目を 85%以上

(4) 国際交流、海外研修、自治会等 31 行事の見直しによる質の充実

- ※ 各行事や取組みの生徒満足度 90%以上 (H29～)

## 3. 世界で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成

(1) 人権を尊重する意識の向上

- ※ 総合的な学習の時間や人権 HR のさらなる充実、きめ細かな相談支援体制の確立 ※学校教育自己診断「人権について学ぶ機会」90%以上

(2) マナー・規範意識等の育成

- ※ 挨拶・清掃・遅刻指導の徹底、遅刻数は年間 2000 を下回ること (H31)

(3) 生徒の自主的な活動の充実

- ※ 自治会活動、部活動のさらなる充実、部活動加入率 90% (H31)

## 4. 「チーム住吉」の確立による新しい課題への挑戦 (支え合い高め合う組織の実現)

(1) SIC (住吉改革委員会) に ① 学習指導 PT ② 新教育課程 PT ③ ICT 推進 PT を設置 (H29～)

- ※ ① 「住吉 AL モデル (仮)」と評価法の策定 ② 「カリキュラム 30 (仮)」 ③ 授業での ICT 活用及び校務の ICT 化の促進

(2) SSH 推進体制の中に、① 校長主宰の「推進会議」② 卒業生による「住高 SSH 支援人材バンク (仮)」を設置 ※SSH の全校体制化のさらなる推進 (H29～)

(3) 地域、PTA、同窓会等と協働する学校づくりの推進及び広報活動体制の強化 ※学校ブログ設置 (H29～)、広報活動の充実 (H29～)

## 府立住吉高等学校

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>教育活動</b> 学校に行くのが楽しい、学級が楽しいは生徒・保護者ともに約 85%、他の学校にはない特色があるが約 95%となっている。保護者からは学校の雰囲気が良く、生徒が生き生きしている 93%と高い評価を得た。生徒の授業についての肯定的評価は 76%と決して高くはないが、評価については 87%が認めている。本年度、校内相互授業見学、公開授業、また阪南中学校との相互授業見学・研究協議など授業力の向上に努めたが、さらなる改善がめざしたい。</p> <p>困っていることには真剣に対応してくれる 82%だが、担任以外に気軽に相談できる先生がいる 65%である。生徒の生徒指導に対する納得は 69%だが、生徒指導方針に対する共感保護者 81%、間違った行動を厳しく指導してくれる 85%、安全な学校づくりに取り組んでいる 87%と高い。</p> <p>人権、国際理解について学ぶ機会について、生徒・保護者ともに 85%を超える肯定的意見があった。</p> <p><b>進路指導</b> 生徒からは、進路について考える機会がある 88%、進路情報、奨学金制度を知らせてくれるがいずれも 87%と高いが、保護者からは情報提供について 62%と乖離がある。保護者への情報提供について考えたい。</p>	<p>第 1 回 (6/22)</p> <p><b>進路指導</b> 進路指導改善のポイントは。生徒の自習指導にボランティアが望まれる。国公立大学合格者の増加は受験者増が影響している。教科の絞り込みをさせないことが大切。国公立と私立との環境の違いなどを伝えては。我々もボランティアに参加できる。住高OBは人材の宝庫、積極的活用を。PTA 大学見学に参加し、生徒にも必要では。</p> <p><b>学校生活</b> 自由、自主、自律は本人が一人前であることが前提。平成 28 年は遅刻数が改善されていない。自己責任をもう少し強調できないか。生徒の反応を見て対応することが大切。「志」を持つ生徒であってほしい。</p> <p><b>S S H</b> 第 3 期には特徴的なものを望む。</p> <p>第 2 回 (10/20)</p> <p><b>学校生活</b> 遅刻や生徒の雰囲気に変化はあるか。始業前のテストなども活用してはどうか。進路面でも、遅刻等についても効果があるのでは。遅刻等悪い面もあるが、自由という校風も大事なのは。学校にゆとりがないと思われる。もっと学校に魅力が必要。何よりも授業が大切なのは言うまでもない。</p> <p><b>S S H</b> 境界領域や国際共同研修について、英語でのサイエンスの授業を行ってはどうか。</p> <p><b>授業見学</b> 和やかにユーモアを交えて授業が行われていた。生徒はまじめ。しっかり頑張っているのが印象的。集中力が高い。工夫されている。文系、理系で雰囲気が違ったが、ICTの導入は難しいという面も感じた。準備もよくされていて教材もそろっている。もっとピリッとしてもよいのではと個人的には思った。</p> <p>第 3 回 (2/23)</p> <p><b>学校教育自己診断</b> 学校評価について、自己評価の数値の定量性に意味はあるのか。教育委員会ではどのように考えていると思われるか。学校評価について、目標設定の仕方次第なので、それほど気にしなくてよいのでは。もちろん低い項目は重点目標とすべきだが、何をもちて評価とするかが問題。学校教育自己診断の「知識技能が身に付いているか」という設問については、身に付いている生徒ほどむしろ評価が低い結果が出るのが分かっている。</p> <p><b>進路指導</b> 入試が変わっていく(記述式)ことに対し、どう対応するのか、その方向はどうか。国公立が増加するためには、保護者に支えていただくのが大切である。今年より行った国公立懇談週間の保護者へのアピールなどが重要。本校は特色ある高校であり、国公立で6名推薦合格が出ているが、今後その蓄積が大切。今後とも進路のわかりやすい説明を継続し、保護者の意識の改革につなげていただきたい。(行事の精選という話題に対し、) 学業も大事だが、行事も大切ではと思う。国公立大学の教育環境のアドバンテージをもっとアピールすべきでは。</p> <p><b>校則</b> 標準服について、導入の効果はどうか。また、校則は細かいことを書くべきものではないと考える。保護者からの指導は教育の基本であり、保護者と教員の連帯が大切であると考え。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上と進路実現	<p>(1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成</p> <p>ア. すべての教科で「つきたい力」「重点目標」「具体的目標」「具体的方策」を見える化し、学校全体で共有し評価する。</p> <p>イ. 新学習指導要領や高大接続を見据えた「カリキュラム30(仮)」の策定</p> <p>ウ. 授業の形態を引き続きアクティブ・ラーニング(探究型、双方向型、課題解決型)とし、「住吉ALモデル(仮)」を構築する。</p> <p>エ. 72期生(29年度入学生)より3年間を見通した進路指導を着実に実行する。70期生、71期生においても一部取り入れて実行する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・SIC(住吉改革委員会)内に「学習指導PT」を新設し、教科のシラバス管理や授業アンケート分析等を行うとともに、教科の具体的目標の達成度を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・首席の主導による経験の少ない教員の公開授業を推奨する。授業後は研究協議を開催するなど、首席が中心となって経験の少ない教員への組織的支援体制を強化する。</li> <li>・PTA主催の教育産業による土曜講習を実施する。</li> </ul> <p>イ・SIC(住吉改革委員会)内に「新教育課程PT」を新設し、H30年度からの新たな教育課程の教科調整、原案作成等を行なう。</p> <p>ウ・首席及び「学習指導PT」が主導し、外国語科(英語)と理科において「住吉ALモデル(仮)」を構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SIC(住吉改革委員会)内に「ICT推進PT」を新設し、「生徒が思考する授業」、「力のつく授業」を目標にICT機器等の活用を推進する。</li> </ul> <p>エ・進路指導部が主導し、学年団と連携の上、3年間を見通した進路指導を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年団ごとの自主的な講習でなく、進路指導部が学校全体で調整、策定した進学講習を系統的に実施する。</li> <li>・PTA主催の模擬試験終了後、進路指導部と学年団が連携し、分析会を実施。生徒の情報を共有する。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・すべての教科で見える化し、学校全体で共有。教科の自己評価をSICが再分析、整理し学校全体で再共有を行う。全教科の目標達成度を70%以上(新設)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業、研究協議を年間6回以上実施(H28:5回)</li> <li>・講習参加生徒の成績向上率20%以上(新設)</li> </ul> <p>イ・「カリキュラム30(仮)」の策定</p> <p>ウ・「住吉ALモデル(仮)」をマニュアルの形にし、全校で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル事例を英語、理科ともに5事例以上作成する。</li> <li>・教員のICT機器等の活用率50%以上(H28)</li> <li>・授業アンケートの「生徒意識2 知識や技能が身についた」の項目3.5以上(H28:3.3)</li> </ul> <p>エ・1年次1学期より系統的な進路ホームルームを実施。(年間8回以上:新設)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統的な進学講習の開催(放課後、長期休業期間合計4回。H28自主講習3回)</li> <li>・模擬試験の分析会を定期的に開催。(年間4回:新設)</li> <li>・生徒の希望する進路の実現率75%以上(新設)、国公立大学合格者70名以上。(H28:47名)</li> <li>・センター試験受験者を200名以上。(H28:194名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスの充実</li> <li>・学校教育自己診断 思考力重視、問題解決的な学習指導 教員肯定70% (○)</li> <li>・公開授業、研究協議6回</li> <li>・校内相互授業見学、中高相互授業見学(◎)</li> <li>・夏季講習、土曜講習、早朝講習、放課後講習など多数開講、新たな自習室の開設(◎)</li> <li>・新指導要領に向け、変更カリキュラム検討委員会設置 (△)</li> <li>・ALモデル 英語5、理科、数学、国語 (○)</li> <li>・学校教育自己診断 教員肯定84% 生徒肯定92% (○)</li> <li>・PTによる他校への調査、報告</li> <li>・授業アンケート 3.27 3.33 (△)</li> <li>・進路HR 1年生7回 進路だより9 (○)</li> <li>・夏季講習、土曜講習、早朝講習、放課後講習など多数開講、新たな自習室の開設(◎)</li> <li>・模試分析会3回 (△)</li> <li>・国公立大学合格者 52名 (△)</li> <li>・センター試験受験者 206名 (◎)</li> </ul>

府立住吉高等学校

<p>2 国際科学高校としての質的な深化</p>	<p>(1) 国際文化科と総合科学科のさらなる融合 ア. 文理融合カリキュラムの実施 イ. ルーブリック評価による生徒の思考力、表現力等の向上</p> <p>(2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成 ア. 授業や行事を通じた「使える英語力」のさらなる向上</p> <p>(3) SSH、ユネスコスクールの取組みの充実 ア SSH の取組みの柱を確立 イ. ユネスコスクール加盟校として平和学習、人権学習を充実させる。</p> <p>(4) 国際交流、海外研修、自治会等 31 行事の見直しによる質の充実</p>	<p>(1) ア・国際文化、総合科学の科長が主導しスーパーサイエンスクラスを開講する。 イ・「SSH 推進会議」を新設し SSH の課題研究、台湾の姉妹校との国際共同研究等の実施に向けたルーブリックを策定する。 ・国際文化科、総合科学科が合同で行う行事を引き続き開催する。</p> <p>(2) ア・暗誦、ディベート等の指導や選択増単位のスーパーイングリッシュ、スーパーコリアン等の授業、英語宿舎、スピーチコンテスト等の行事を引き続き系統的に実施する。 イ・選択増単位のスーパーサイエンスクラス(新設)において科学英語の学習を行う。</p> <p>(3) ア・SSH の取組みの柱①課題研究の質の向上 ②国際共同研究 ③小中高大・産学連携を確立する。 イ・ESD を柱とした総合的な学習の時間、カンボジアへのアジアフィールドスタディ、「日中韓まなびあい」等のユネスコスクール行事等を中心に平和学習、人権学習を充実させる。</p> <p>(4) SIC(住吉改革委員会)において「行事の精選」を課題として、31 行事の精選及び効果的な実施を確立する。</p>	<p>ア・学科、学年を越えたスーパーサイエンスクラスの円滑な開講(新設) ・学校教育自己診断における「評価基準について事前に示されている(H28:88%)」、「評価について納得できる(H28:87%)」を共に92%以上とする。 ・SSH 国際共同研究を両科が協働し、本格実施させる。(H28 合同開催は、スタディーツアー、外務省高校講座、各種研修旅行等)</p> <p>(2) ア・TOEFL 80 点以上4名、60 点以上 25 名(H28:80 点以上 2 名、60 点以上3名) ・TOEIC の平均スコア 500 点以上(H28:427.4 点) ・英語学力調査の平均スコア 520 以上(H28:平均点1年 482.8 点、2年 518.8 点。700 点以上1年1人、2年9人。最高点 788 点)</p> <p>(3) ア・各取組みの成果指標の達成率80%以上 イ・学校教育自己診断の「環境、国際理解、福祉ボランティア等について学ぶ機会がある」の項目を80%以上(H28:79%)</p> <p>(4) ・年度中に行事の精選を行い次年度より実施 ・生徒の満足度90%以上</p>	<p>・SSC開講済み (○)</p> <p>・学校教育自己診断 肯定81% ・学校教育自己診断 肯定87% (△)</p> <p>・国際共同研究 継続実施中 (○) ・各種研修旅行等計画通り実施 (○)</p> <p>・TOEFL: 80 点以上3名、60 点以上3名 (△) 最高 111 点 ・TOEIC 406.3 点 (△) 最高 750 点 ・英語学力調査 (◎) 新たにスピーキングテスト実施済み 平均点1年 492.3 点、2年 524.8 点。 700 点以上1年2人、2年5人。 最高点 785 点</p> <p>・学校教育自己診断 肯定85% (◎)</p> <p>・PTにより行事の精選 (○)</p> <p>・学校教育自己診断 肯定平均84% (△)</p>
<p>3 豊かな国際感覚、人権感覚の育成</p>	<p>(1) 人権を尊重する意識の向上</p> <p>(2) マナー・規範意識等の育成</p> <p>(3) 生徒の自主的な活動の充実</p>	<p>(1)・人権教育推進委員会において、人権ホームルーム及び教員研修の一層の充実を図る。本名使用の指導、LHR での人権講演会については継続して実施する。 ・支援カードⅠ、Ⅱの活用及び支援委員会によるきめこまかな生徒の支援体制の全校化を引き続き行う。 ・帰国渡日生を支援する GL(グローバル ライフ)委員会の活動を引き続き充実させる。</p> <p>(2) ・生活指導部を中心に学年団との連携により、遅刻指導、自転車等のマナー指導、挨拶指導等の徹底を図る。「住吉是」・・・「挨拶をする・時間厳守・公共の場の清掃」の徹底を図る。朝の挨拶指導、遅刻指導、集合等の時間厳守) ・保健部を中心に学年団と連携し、定期清掃、大掃除時の徹底を図る。</p> <p>(3)・自治会中心に生活指導部、学年団等と連携し、生徒が主体的に行う体育大会、学園祭等の行事やコンテスト等への参加を充実させる。</p>	<p>(1)・人権ホームルームの質のさらなる充実を図る。 ・学校教育自己診断の「人権について学ぶ機会がある。」85%以上(H28:84%) ・教員研修を年間3回開催(目的別実施含む。)教員の全員参加が目標(H28:90%) ・学校教育自己診断の「担任以外に相談できる先生」70%以上(H28:64%)</p> <p>(2)・遅刻指導の徹底、年間2000 件台(H28:3355 件) ・清掃美化について HR 教室等、学習環境を美しく保つことをめざし、定期的にチェックする体制を整える。年間3回チェックを行う。(新設)</p> <p>(3)・学校教育自己診断の「自治会活動は活発である。」を90%(H28:87%)、「部活動に積極的に取り組んでいる」を85%(H28:82%) ・新入生部活動加入率を80%(H28:全体76.6%)</p>	<p>・学校教育自己診断 肯定87% (◎)</p> <p>・教員研修7回 (◎) 教務、人権、AED リスクマネジメント(新規) エピペン(新規)</p> <p>・学校教育自己診断 肯定65% (△)</p> <p>・遅刻 2827 件 15.7%減 (◎)</p> <p>・美化点検3回 キャンペーン14回 (◎)</p> <p>・学校教育自己診断 肯定76% (△) ・学校教育自己診断 肯定80% (△)</p> <p>・新入生部活動加入率95.4% (◎)</p>

## 府立住吉高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 「チーム住吉」の確立による新しい課題への挑戦</p>	<p>(1)SIC(住吉改革委員会)に①学習指導PT②新教育課程PT③ICT推進PTを設置</p> <p>(2)SSH推進体制の中に、①校長主宰の「推進会議」 ②卒業生による「住高SSH支援人材バンク(仮)」を設置</p> <p>(3)地域、PTA、同窓会等と協働する学校づくりの推進及び広報活動体制の強化</p>	<p>(1) SIC(住吉改革委員会)に①学習指導PT②新教育課程PT③ICT推進PTを新たに設置する。 平成28年度に授業改善、高大接続、ICTの3つのグループで取り組んだ課題について、本格的に検討を行う。(活動内容等については先述)</p> <p>(2) SSHについては、平成28年度に開催した「SSHコア担当者会議」を発展させ①校長主宰による「推進会議」を開催し、事業の企画立案や進捗管理等を行う。 ②「住高SSH支援人材バンク(仮)」を設置。課題研究や講演会の講師等の支援を受ける。</p> <p>(3) ・地元の2小学校、1中学校と28年度から開始した「SSH実験教室」の内容を充実させるとともに、特に中高の教員交流を推進する。 ・引き続きPTA、同窓会から学校の教育活動への一層の理解・支援を受ける。 ・総務部中心に学年団と連携し、効果的な広報活動を展開する。 合わせて学校説明会・体験入学会やホームページ等を活用した広報活動の充実を図る。</p>	<p>(1) 新たに設置した3つのPTの活動を年間8回実施する。(新設)</p> <p>(2) ・校長主宰の推進会議を開催する。(年間15回) ・「住高SSH支援人材バンク(仮)」を課題研究に活用する。メール、skype等により、質疑応答、指導・助言等の支援(新設)</p> <p>(3) ・小学生対象の教室を年間3回、中学生対象の教室を年間4回以上実施する。(H28:上記同数) ・地元中学校との教員交流を年間2回以上実施し、本校のSSHで作成した教員マニュアルや教材等の普及を行う。 ・学校行事へのPTAの参加者増をめざす。(新設) ・学校説明会・体験入学会を年間4回開催する。(H28:4回) ・志願者の多い中学校20校への訪問を行う。(新設) ・前年出願のあった中学校およびPTA(156校)へ連絡を取り、本校プレゼン等の要望に応える。(新設)</p> <p>・PT活動 15回 (◎)</p> <p>・SSH推進会議 16回 (○)</p> <p>・「住高支援ネットワーク」講演会 講師 プレゼン 英語指導 課題研究に協力 (○)</p> <p>・SSH実験教室 小学校3回(100名参加) 中学校4回 (◎)</p> <p>・中学との相互授業見学会、研究協議2回 (◎)</p> <p>・PTA学校行事参加者増 (◎) AED、エピペン講習、学校保健委員会 ・第1回352名第2回542名第3回447名 体験入学 総科200名、国文300名 入場制限 (◎)</p> <p>・中学校訪問、出前授業 全中学校へメール発信 新入生学校紹介パンフ配布 (○)</p>
---	---	---	--